

## ■ 概況

4/12~4/18のNYMEX・WTIは、シリアへのミサイル攻撃などから66.22~68.47ドルの範囲で堅調に推移した。

4月19日は、サウジアラビアが目標原油価格を80ドルに引き上げるとの報道などから、一時70ドルに迫ったが、その後前日の高値に対する利食い売りに押され3日振りに反落した。5月限の終値は前日比0.18ドル安の68.29ドルだった。

週末20日は、トランプ米大統領が、原油の人為的高価格を批判するコメントをしたことからやや値を下げたがその後買い戻され、小反発した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は820基（前週比5基増）だった。この日最終取引となった5月限の終値は前日比0.09ドル高の68.38ドル、6月限の終値は前日比0.07ドル高の68.40ドルだった。

週明け23日は、米国のイランへの経済制裁再開への懸念などから小幅に値上がりした。この日から中心限月となった6月限の終値は前週末比0.24ドル高の68.64ドルだった。

24日は、米金利の上昇などからリスク回避姿勢が強まり、3営業日振りに反落した。6月限の終値は前日比0.94ドル安の67.70ドルだった。

25日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が市場予想に反して積み増しだったが、トランプ大統領のイランに対する強硬姿勢への懸念から反発した。6月限の終値は0.35ドル高の68.05ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、前週は68.40~69.20ドルの範囲で推移した。4月19日70.20ドル、20日70.30ドル、23日70.50ドル、24日71.70ドル、25日70.00ドルで推移した。

為替は、前週106.91~107.51円の範囲で推移した。4月19日107.49円、20日107.48円、23日107.84円、24日108.76円、25日108.88円で推移した。

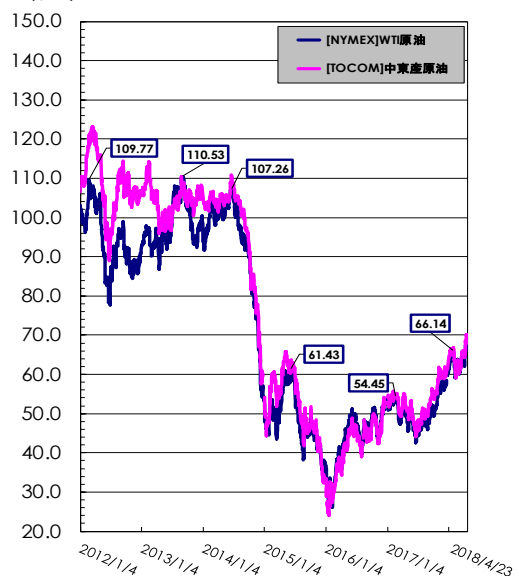
財務省が26日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、43,883円/klとなり、前旬を201円下回った。ドル建てでは66.01ドルで前旬比0.01ドル高。為替レートは1ドル/105.68円。

主要元売会社の5月第1週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油が1.5円~2.0円の値上げ、灯油は0.5円~1.5円の値上げだった。原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、4月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.8円の値上がり、軽油も同0.7円の値上がり、灯油は同2円の値上がり(18%ベース)だった。いずれも2週振りの値上がりだった。この週(4月第4週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油が全社が2.0円の値上げ、灯油が据え置きから0.5円の値上げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/15 ~ 4/21	3,470 ▼ -179	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.6 ▼ -4.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	4/21	12,930 ▲ 176	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	4/23	69.39 ▲ 1.58	▲ 17.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/23	68.64 ▲ 2.42	▲ 19.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月上旬	66.01 ▲ 0.01	▲ 12.10
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	43,883 ▼ -201	▲ 6,266
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.68 ▲ 0.52	▲ 5.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/23	108.84 ▼ -0.33	▲ 2.12

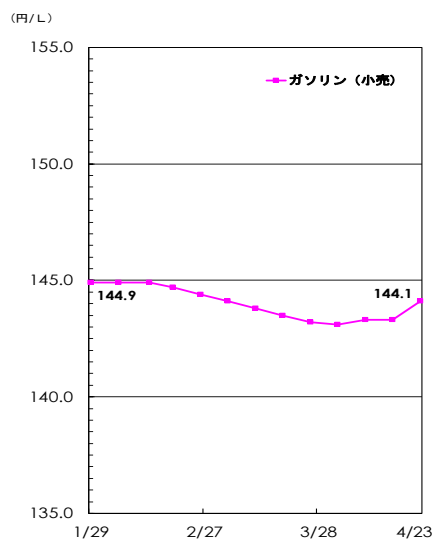
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/15 ~ 4/21	920 ▼ -79	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	849 ▼ -36	▼ -	
	輸出	"	121 ▲ 49	▲ -	
	在庫	4/21	1,693 ▼ -49	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/17 ~ 4/23	62.0 ▲ 2.0	▲ 10.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/17 ~ 4/23	62.2 ▲ 2.3	▲ 12.3
		(TOCOM/中部)	4/23	61.5 ▲ 2.0	▲ 11.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/23	144.1 ▲ 0.8	▲ 10.2	

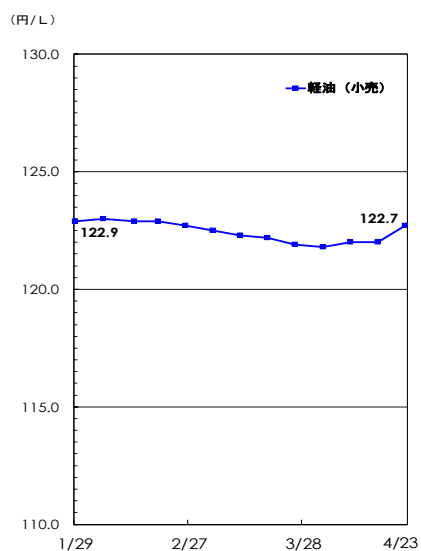
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

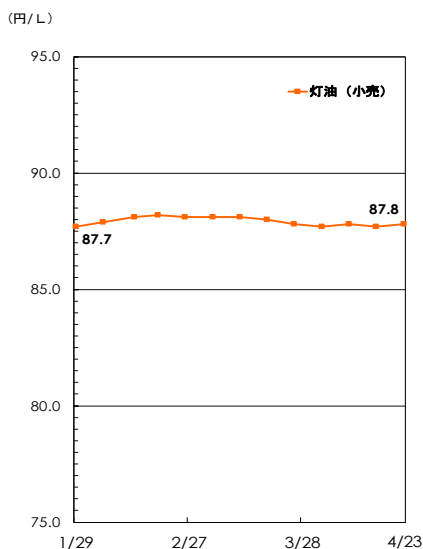
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/15 ~ 4/21	888 ▲ 108	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	667 ▲ 28	▲ -	
	輸出	"	134 ▲ 35	▲ -	
	在庫	4/21	1,453 ▲ 88	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/17 ~ 4/23	63.2 ▲ 1.9	▲ 12.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/17 ~ 4/23	62.3 ▲ 1.3	▲ 14.3
		(TOCOM/中部)	4/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/23	122.7 ▲ 0.7	▲ 10.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/15 ~ 4/21	183 ▲ 19	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	218 ▼ -54	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/21	1,377 ▼ -34	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/17 ~ 4/23	63.1 ▲ 1.1	▲ 13.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/17 ~ 4/23	62.7 ▲ 2.0	▲ 16.9
		(TOCOM/中部)	4/23	60.5 ➡ 0.0	▲ 14.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/23	87.8 ▲ 0.1	▲ 10.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月25日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫は前週比220万バレル増と市場予想の200万バレル減に反し、ガソリン在庫も80万バレルの積み増しと60万バレルの取り崩し予想に反したことで、一時値下がりをした。しかし、トランプ大統領のイラン核合意に対する姿勢への懸念や、午後になり株価が上昇したことから値上がりに転じた。6月限の終値は前日比0.35ドル高の68.05ドル、7月限の終値は前日比0.35ドル高の67.92ドルだった。

EIAによると、4月23日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.1セント値上がりの1ガロン2.798ドル(80.4円/ℓ)と

なった。ディーゼルは前週比2.9セント値上がりの3.133ドル(90.0円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは5週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年04月15日～04月21日に休止したトッパー能力は21.2万バレル/日で、前週に対して20.7万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は347.0万klと、前週に比べ17.9万kl減少。前年に対しては21.6万klの減少。トッパー稼働率は88.6%と前週に対して4.6ポイントの減少、前年に対しては5.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリンが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.9%減、ジェット/3.6%増、灯油/11.3%増、軽油/13.9%増、A重油/15.3%増、C重油/1.5%増。今週のC重油の輸入は5.8万kl(前週比1.9万kl減)。軽油の輸出は13.4万kl(前週比3.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油とC重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油とA重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は84.9万kl(対前週4.1%減)と2週連続で前週比、前年比で減少となり、4週連続で100万kl

を下回った。ジェット6.4万kl(対前週27.4%減)、灯油21.8万kl(対前週20.0%減)、軽油66.7万kl(対前週4.4%増)、A重油20.6万kl(対前週9.4%減)、C重油19.4万kl(対前週11.1%増)。

(単位:千KL)

	今週 (4/15 ~ 4/21)	前週 (4/8 ~ 4/14)	前週比
ガソリン	849	885	▼ -36 (-4%)
ジェット燃料	64	89	▼ -25 (-28%)
灯油	218	272	▼ -54 (-20%)
軽油	667	639	▲ 28 (4%)
A重油	206	227	▼ -21 (-9%)
C重油	194	175	▲ 19 (11%)
合計	2,198	2,287	▼ -89 (-4%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月21日時点の在庫は、軽油、A重油で積み増しとなり。その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは169.3万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては15.5万kl少ない。

灯油は137.7万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては39.6万kl多い。

軽油は145.3万kl、前週差8.8万kl増。前年に対しては16.3万kl少ない。

A重油は72.9万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては5.3万kl少ない。

C重油は199.8万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては6.6万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (4/21)	前週 (4/14)	前週比
ガソリン	1,693	1,742	▼ -49 (-3%)
ジェット燃料	1,080	1,115	▼ -35 (-3%)
灯油	1,377	1,411	▼ -34 (-2%)
軽油	1,453	1,365	▲ 88 (6%)
A重油	729	713	▲ 16 (2%)
C重油	1,998	2,012	▼ -14 (-1%)
合計	8,330	8,358	▼ -28 (-0.3%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月17日から4月23日の原油価格は、前週対比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、4月17日～4月23日までの間、ガソリン114～116円台で値上がり、軽油61～63円台で値上がり、灯油62～63円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン117～118円台で値上がり、軽油62円台で小幅に値上がり、灯油60～62円

台で値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン114～116円台で値上がり、軽油61～63円台で値上がり、灯油61～63円台で値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは全社2.0円値上げ、軽油も全社2.0円値上げ、灯油は据え置きから0.5円の値上げだった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種値上がりした。

5月第1週(4月26日～5月2日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月17日～4月23日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.0円、灯油は1.1円、軽油は1.9円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.2円、灯油は2.3円、軽油は0.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが2.3円、灯油は2.0円、軽油は1.3円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりした。

5月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリンが1.5円～2.0円の値上げ、軽油も1.5円～2.0円の値上げ、灯油は0.5～1.5円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (4/17 ~ 4/23)	前週 (4/10 ~ 4/16)	前週比
レギュラー	62.0	60.0	▲ 2.0
灯油	63.1	62.0	▲ 1.1
軽油	63.2	61.3	▲ 1.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (4/17 ~ 4/23)	前週 (4/10 ~ 4/16)	前週比
レギュラー	62.2	59.9	▲ 2.3
灯油	62.7	60.7	▲ 2.0
軽油	62.3	61.0	▲ 1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/17～4/23実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.0	▲ 2.3	▲ 2.1
灯油	▲ 1.1	▲ 2.0	▲ 1.5
軽油	▲ 1.9	▲ 1.3	▲ 1.6
A重油	▲ 1.8		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

4月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円高の144.1円、軽油も同0.7円高の122.7円、灯油は同0.1円高の87.8円(18%ベースでは同2円高の1,581円)だった。いずれも2週振りの値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは41都道府県、横ばいは2府県、値下がり4県だった。全国最安値は徳島県の136.3円(同0.4円高)、次が埼玉県の高139.8円(同0.7円高)、最高値は長崎県の151.8円(同1.2円高)だった。最も値上がりしたのは、2.6円高の青森県(142.6円)だった。最も値下がりしたのは、0.1円安の滋賀県(144.6円)等4県だった。

先週の原油コストは値上りし、5月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリンが1.5円～2.0円の値上げ、軽油も1.5円～2.0円の値上げ、灯油は0.5～1.5円の値上げとなった。

次週(5月1日調査)のガソリンの小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (4/23)	前週 (4/16)	前週比	直近高値
レギュラー	144.1	143.3	▲ 0.8	08/8/4 185.1
灯油	87.8	87.7	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	122.7	122.0	▲ 0.7	08/8/4 167.4

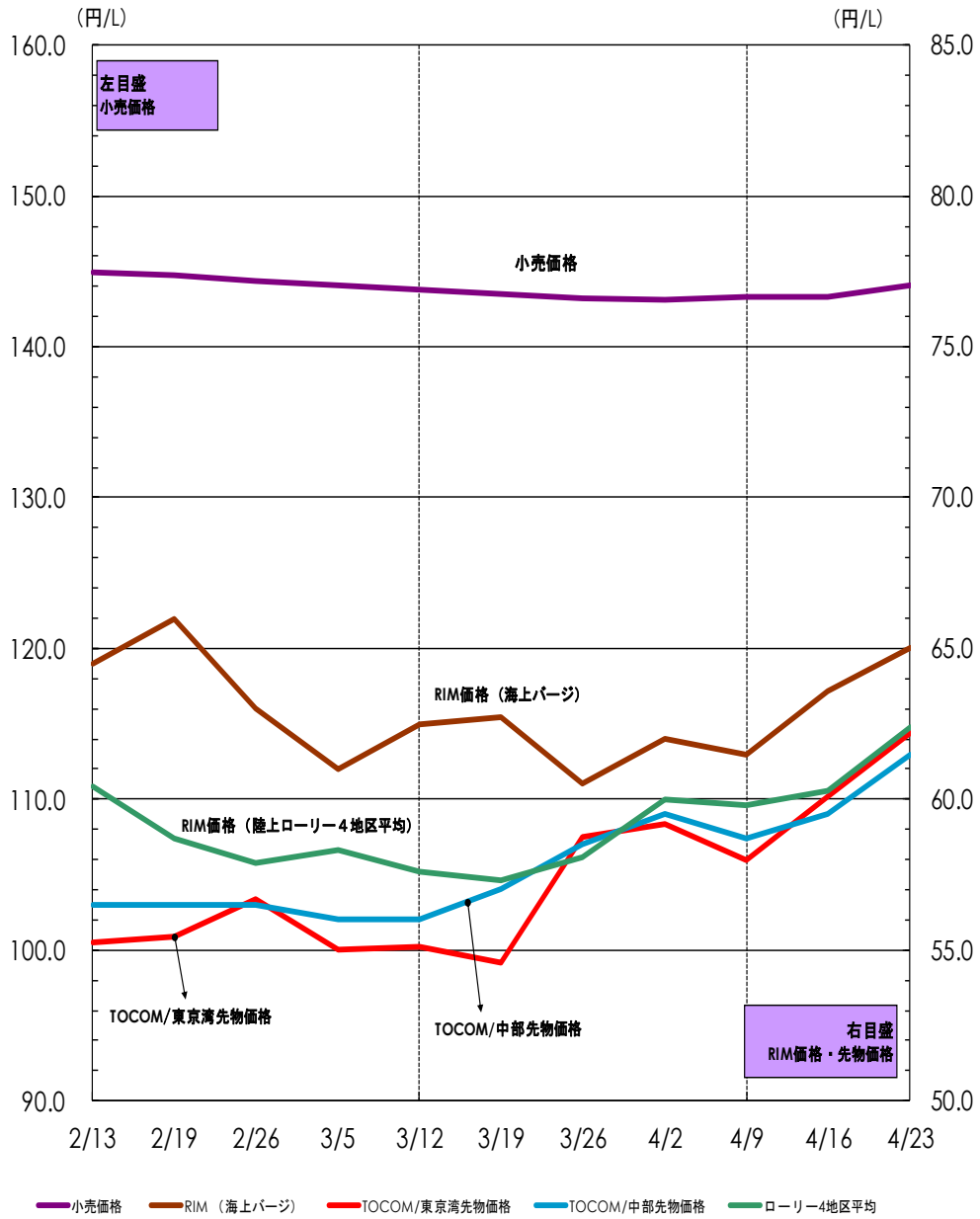
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/2/13 ~ 2018/4/23)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2018第5号)の公表は、5/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。